大学生における父親への幻滅とジェンダー・パーソナリティの関係

畠山 孝男

(東北文教大学人間科学部)

キーワード: 父親, 幻滅, ジェンダー・パーソナリティ

The relationships between disillusionment with fathers and gender personality in college students

HATAKEYAMA Takao

(Faculty of Human Sciences, Tohoku Bunkyo College)

Key words: father, disillusionment, gender personality

近年, 父親に関する研究は蓄積されつつあるが, 子どもが父親をどのように認識し評価しているかに関する研究は少ない(森下, 2011)。本研究では, 大学生が父親に抱く幻滅感を調査することによって, 子どもの側から見た父親像を問題とする。我が国の父親像, ひいては家庭内での男性像の側面が明らかになると思われる。ジェンダー・パーソナリティと関係することが予想されるので, それについても検討する。

山添 (1981) は, 父親像変化の契機 (幻滅) について, 大学生に 20 答法で記述を求め, その内容項目をもとに, 8 カテゴリー全 30 項目の父親像調査質問紙 (「父親への幻滅」質問紙) を作成した。山添 (1995) はそれを用いて性差について検討している。本研究では, 山添 (1981) の質問紙と土肥・廣川 (2004) の「共同性・作動性尺度 (CAS)」を実施して, 幻滅のカテゴリーごとの得点を分析し, ジェンダー・タイプ及び CAS を構成する 4 尺度との関連について検討する。

方 法

調査対象者 山形県内にある A 大学の 1・2・3・4 年生 251 名 (男性 68 名, 女性 183 名, 18-23 歳)。

調査時期 2014 年 12 月。

質問紙 「父親への幻滅」質問紙 (山添, 1981) (5 件法), 「共同性・作動性尺度 (CAS)」(土肥・廣川, 2004) (4 件法)。

結果と考察

幻滅質問紙は, 家族関係不適応 (3 項目), 人生観断絶 (4 項目), 権威不在 (4 項目), 性格の不一致 (2 項目), 養育態度の不適切 (8 項目), 身体的・精神的老化 (2 項目), 社会生活態度の不一致 (4 項目), 家庭生活態度の不適切 (3 項目) の 8 カテゴリーから構成されている。各カテゴリー得点として 1 項目当りの評定値を算出した。CAS は, 「肯定的作動性」「肯定的共同性」「否定的作動性」「否定的共同性」の 4 つの尺度得点を算出し, さらに肯定的共同性と肯定的作動性の得点で, ジェンダー・タイプを心理的両性具有型, 女性性優位型, 男性性優位型, 未分化型に分類した。

幻滅の各カテゴリーの平均得点

各カテゴリーの平均得点 (図 1) で, 最も幻滅を感じやすいのは男女とも人生観の断絶で, 次いで男性では養育態度の不適切, 家族関係不適応, 女性では家庭生活態度の不適切, 養育態度の不適切, 家族関係不適応であった。家庭生活態度の不適切は女性では 2 番目の高さであり, t 検定で男性との間に有意差が見られた ($p=.005$)。女性にとって気になるカテゴリーと言える。最も低いカテゴリーは, 男女とも身体的・精神的老化で, 父親の老化については大学生では受容されていることが分かる。次いで低い社会生活態度の不一致と性格の不一致は, 「どちらともいえない」のレベルであった。

幻滅の各カテゴリー間の相関

各カテゴリー間の相関はほとんどが中程度以上であった (表 1)。幻滅を感じる人はどのカテゴリーでも感じやすく, 感じない人はそうでないことが分かる。身体的・精神的老化

図1 幻滅の各カテゴリーの評定平均値

表 1 幻滅の各カテゴリー間の相関

	家族関係	人生観	権威不在	性格	養育態度	老化	社会生活	家庭生活
家族関係		.643**	.671**	.549**	.668**	.340**	.665**	.596**
人生観	.681**		.554**	.777**	.078	.559**	.580**	
権威不在	.660**	.678**		.472**	.667**	.382**	.670**	.630**
性格	.551**	.503**	.505**		.572**	.272**	.539**	.339**
養育態度	.696**	.794**	.708**	.403**		.222**	.577**	.591**
老化	.416**	.405**	.544**	.466**	.350**		.371**	.229**
社会生活	.654**	.633**	.778**	.574**	.630**	.435**		.513**
家庭生活	.454**	.539**	.549**	.325**	.618**	.246**	.483**	

注) 左下: 男性, 右上: 女性

** $p<.01$, * $p<.05$

は他のカテゴリーとの相関が男女とも高くないが, 女性において特に低かった。

ジェンダー・タイプと幻滅の関係

4タイプにおける各幻滅カテゴリーの平均得点について, 1元配置分散分析を行った。有意差が見られたカテゴリーはなかったが, 有意傾向ないしはそれに近いカテゴリーに着目すると, 人生観断絶については未分化型の男女とも (男性 $M=4.01$, 女性 $M=4.05$), 家庭生活態度の不適切では女性性優位型の男性が ($M=3.80$), 性格の不一致と養育態度の不適切では女性性優位型の女性が ($M=3.39$; $M=3.72$), 幻滅感が大きいことが示唆された。

各ジェンダー・タイプ内で性差の t 検定を行った。未分化型と男性性優位型では, 家庭生活態度の不適切について女性の方が幻滅が大きかった ($p=.003$; $p=.055$)。同じ型でも家庭生活態度に関しては, 性別で意識が違うことが注目される。

作動性・共同性と幻滅の関係

係数は小さいが, 肯定的作動性は男女とも, どの幻滅カテゴリーとも (男性は家庭生活態度を除き) 負の相関を示した (男性 $r=-.073$ -.280, 女性 $r=-.026$ -.201)。作動性が肯定的に働くと幻滅感が少ないことがわかる。また男性で, 肯定的共同性は幻滅感と負の相関を (家庭生活態度を除き $r=-.148$ -.391), 否定的共同性は正の相関を示した ($r=.200$ -.341)。男性においては共同性が父親との関係の鍵ようである。

引用文献

- 土肥伊都子・廣川空美 (2004). 心理学研究, 75, 420-427.
 山添正 (1981). 山梨大学教育学部研究報告, 32, 121-128.
 山添正 (1995). 神戸親和女子大学論叢, 28, 173-186.
 [付記]2014年度東北文教大学人間科学部4年生難波いずみさんの協力を得た。